

朝来市行財政改革推進委員会 第4回会議 会議録

○ 開催日時 令和5年3月7日(火) 13時30分～14時30分

○ 開催場所 朝来市役所本庁舎 3階 庁議室

○ 出席者の氏名

	出席者	欠席者
委員	片山剛伸	小田正儀
	神田敦弘	下口光子
	北見龍彦	中島しのぶ
	倉田良樹	
	玉田恵美	
事務局 企画総務部 総合政策課	政策担当部長 大林崇人	
	総合政策課長 和田幸司	
	課長補佐 馬袋真紀	
	課長補佐 太田晋平	

○ 傍聴者 なし

○ 会議

1 開会

第7期朝来市行財政改革推進委員会の第4回会議を開催します。

2 あいさつ

会長 第7期朝来市行財政改革推進委員会は11月から開催し、本日を含め4回の審議を経て、「使用料、手数料改正に向けた方向性の確認について」と「補助金の適正化に係る外部評価について」についての取りまとめができたため、本日は市長への中間答申を提出する。会議の後半は、市長と意見交換も予定されている。市長と意見交換できる貴重な機会である。有意義な会になるよう、委員の皆さん、よろしく願いしたい。

3 審議

(1) 朝来市行財政改革推進の在り方について中間答申(案)について

資料1「朝来市行財政改革推進の在り方について(中間答申)(案)」により、答申内容について説明。

会長 「使用料、手数料改正に向けた方向性について」は、第2回会議で審議した。審議の結論としては適正な使用料・手数料となるよう改正を行うことは妥当であるという結論になった。まず、この点について、委員の皆様から

ご意見をお願いしたい。

委員 意見なし。

会長 「補助金の適正化に係る外部評価について」の審議結果については、総論と各論に分かれて整理している。

総論のポイントとしては3つある。1点目は、「補助金等適正化に関するガイドライン」に基づき、庁内のチェック体制を引き続きお願いしたいこと。2点目は、一旦制度化された補助制度がエンドレスで続くことがないように、時代や状況にあわせ補助制度の妥当性を常に検証すること。3点目は、目的達成のために補助制度だけでなく他の方法で進めた方が趣旨にあう場合もあるため、その検討が必要であること。この点について、委員の皆様からご意見をお願いしたい。

委員 意見なし。

会長 審議どおり中間答申にまとめていただいているので、これで良いと思う。

会長 最後に、「補助金の適正化に係る外部評価について」の各論にあたる個別評価について別表にて整理されている。この点について、委員の皆様からご意見をお願いしたい。

委員 意見なし。

会長 意見がないようですので、この内容で、第7期朝来市行財政改革推進委員会の中間答申として確定させていただく。

4 中間答申

会長から市長へ「朝来市行財政改革推進の在り方について（中間答申）」を提出。

市長 委員の皆様には、令和4年11月29日から任期2年間、委員に就任いただいた。令和4年度は本日を含め4回の審議をいただき、先ほど中間答申を受け取った。委員の皆様には大変お世話になり、御礼を申し上げる。中間答申の内容については真摯に受け止め、今後の行財政改革に努めていく。

5 市長との意見交換

事務局 最初は、令和4年度に審議いただいた内容や感想を中心に各委員から発言をお願いしたい。

委員 委員会では補助金の適正化に係る外部評価を行ったが、その中の一つとして JR 播但線団体利用促進補助金について議論した。市は JR ローカル線維持のために色々ご尽力をいただいていることは理解している。JR ローカル線の維持については市民も関心の高いところ。今後の方向性について、ご教示いただきたい。

委員 補助金の適正化に係る外部評価を行ったが、補助制度を活用している人とそうでない人がいる状態。効果を高めるためにも、補助制度の周知が重要だと感じた。

委員 人口減少はどのまちでも同じ状況であり大きな問題である。子どもの医

療費助成など他市に比べて充実している。朝来市外の方への広報をしっかりと行うことで、一人でも多くの方に朝来市に住んでもらえるようにつなげてもらいたい。

委員 補助金の適正化に係る外部評価は、福祉分野について担当して審議した。福祉分野はまちづくりの根幹になる部分であると感じている。まちづくりにおいて経済政策はもちろん必要であるが、子育てや女性に優しいまちづくりは住みたいまちとして選ばれやすいポイントになると思う。医療費助成については、それだけではなく、朝来市の地理的状況を鑑み、医療機関への交通費助成など臨機応援な対応が必要であると感じた。

会長 行財政改革の背景を考えながら委員会に臨んでいた。人口減少は非常に厳しい状況であり、この課題に取り組まなければならないが簡単に解決できるものではない。だからこそ、重点的に取り組むことを決めて進めることが重要であり、他のまちがしているから朝来市もするというのであれば無駄な投資につながるリスクがあると思う。また、道路や上下水道等の生活インフラは市民生活のためには絶対に必要なことであるため、そのバランスも考えながら市の取組は考えていく必要があると思う。

市長 最初に、今回、答申いただいた「補助金の適正化に係る外部評価（個別評価）」の内容について令和5年度予算にも関係する現時点の朝来市の考え方を説明したい。

補助制度の広報方法の工夫については、全ての補助制度に言えることだが市民への周知が行き届いていない課題があると感じている。したがって、全ての補助制度の一覧表を作成し、市民に分かりやすく周知する予定にしている。

朝来市自主防災リーダー育成事業の「資格取得前に申請することは補助金活用のハードルが高い」についてはそのとおりだと思う。担当する防災安全課に資格取得後においても補助金支払いができないか、検討を依頼している。

朝来市には消防車両として小型ポンプ車と可搬式ポンプ車があるが、いずれもAT限定の運転免許証では運転することができず、また小型ポンプ車の運転は準中型自動車運転免許が必要である。消防団員準中型自動車運転免許等取得費補助金は、AT限定解除の補助とポンプ車を運転するための準中型免許取得の補助である。本制度は必要であるが、地域の状況等に応じて消防車両の型式は今後検討したい。

高校生等医療費助成事業の「通院医療費も助成対象に追加することを検討」については、いただいた意見のとおり令和5年度から通院費無償化を行う予定である。

一般不妊治療費助成金の「医療機関への交通費を補助対象にすることを検討」については、不妊治療に要する交通費補助ではないが、令和5年度から新たに妊婦検診、出産時及び産婦健診における交通費補助を行う予定である。

不妊治療ペア検査助成金の「補助対象の所得制限を外すことを検討」については、兵庫県の制度改正あわせ、令和5年度から所得制限を外す予定である。

サテライトオフィス等開設補助金の「空き家活用以外に新築を補助対象にす

ることを検討」については、いただいた意見のとおり令和5年度から新築も補助対象にする予定である。

日本オオサンショウウオの会・朝来大会実行委員会補助金の「事業終了で終わりではなく、オオサンショウウオを中心とする自然環境保全の取組をはじめ、自然との共生の取組を継続することが必要」については、現在、黒川自然環境基本構想を策定中であり、今後は施設改修等も行いながらオオサンショウウオを中心とした環境学習など人と自然の共生の推進や地域活性化につなげていく予定である。

次に、各委員からいただいたご意見の内容について説明したい。現在、朝来市における JR 播但線利用促進の取組は、JR 播但線団体利用促進補助金、特急はまかぜ利用促進補助金、市公共交通通勤利用促進補助金及び奨励金といった助成制度を設け利用促進を図っている。令和5年度からは、特急はまかぜ利用促進につなげるため、特急はまかぜを利用されるときは駐車場を無料で使用できるよう、和田山駅と生野駅にパークアンドライドの設置を予定している。また、兵庫県議会が JR 播但線利用促進議員連盟を設置し、県や沿線市町、県選出の国会議員らと連携して利用促進と路線の存続を目指して活動されているほか、兵庫県が関係市町、事業者、有識者等で JR ローカル線維持・利用促進検討協議会を組織し、沿線自治体で連携しながら利用促進に向けて取り組んでいる。

まちづくりの根幹である社会福祉関係については、令和5年度予算の最重要施策として、①妊娠・出産・子育て支援、②高齢者施策、③経済対策、④未来への対策の4本柱を軸に、妊娠期から高齢期までのライフステージに応じた切れ目ない支援を展開する予算編成を行った。

人口減少問題については、どの自治体も深刻な状況であり、同じような政策を進めている状況にある。朝来市も他の自治体との差別化・区別化をしながら朝来市の独自政策を進め、人口減少対策に向けてしっかりと取り組んでいきたいと考えている。

事務局 行財政改革に関すること以外でもご意見があれば、発言をお願いしたい。

委員 事業者を取り巻く環境は非常に厳しい状況である。各自治体は事業者に対する支援策を設けているが、朝来市に他市と比べて特化している事業者向けの制度があるか教えていただきたい。

市長 朝来市の産業の状況は、製造業は、生産額は大きく、朝来市の強みであると考えている。朝来市の事業者向けの制度は、何かに特化しているというよりも他の自治体と同じような状況だと思うが、工業団地が完売していることもあり、工業団地の造成計画を進めている状態である。

また、経済対策として電子通貨あさご Pay も来年度も引き続き行う予定である。経済対策は、外貨の獲得とあわせ、内発的な経済循環につなげていく取組を進めていかなければならない。

観光振興では、単なる観光を進めていくだけでなく、朝来市固有の文化と結

び付け、関係人口づくりや朝来市のファンづくりにつなげていきたいと考えている。2025年大阪・関西万博の開催を機に兵庫県が展開する「ひょうごワールドパビリオン」では、朝来市観光協会の提案した体験型プログラムが「SDGs体験型地域プログラム」の認定を受けた。この体験型プログラムでは、参加者が朝来市に滞在しながら様々な体験活動をすることで、関係人口やインバウンド観光の増加につなげていきたい。

6 その他

(1) 第3回会議議録の確認について

2月8日付で委員各位には会議録の確認依頼を行った。委員からは変更等についての連絡がなかったため、確認いただいた内容で会議録を確定する。

(2) 次年度の会議の開催時期について

本年度の行財政改革推進委員会については、本日、市長に中間答申の提出を行っていただいたため、今回の会議が最後となる。

令和5年度の行財政改革委員会については、4回程度の開催を予定している。開催時期や審議内容については、7月中旬ごろに第4次行財政改革大綱の進捗状況確認を、8月中旬から9月下旬ごろにかけて事務事業評価に係る外部評価を予定している。開催日が決まり次第、お知らせする。

5 閉会

政策担当部長 今日は中間答申における審議の後、審議結果を市長へ中間答申として提出していただいた。本日、答申いただいた内容は、総合政策課を中心に関係課と連携しながら進めていく。使用料・手数料の改正については次年度に条例改正に向けて進め、補助金の適正化については今回の評価内容を踏まえ、評価結果に基づく対応を図りつつ、引き続き定期的な検証による見直し等に努めていく。

本年度は本日を含め計4回の審議会にご足労いただき貴重なご意見をいただいた。次年度以降も、引き続き当審議会において、本市の行財政改革の取り組みが第4次行財政改革大綱の内容に沿った形で実施され、健全な財政運営の推進に資するものとなるよう、引き続き委員の皆様のご理解とご協力をお願いしたい。